

令和元年10月16日

令和元年

第10回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和元年 10 月 16 日（水曜日）午後 2 時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	

2 出席職員（11名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	杉 山 良 樹
教育施設担当課長	鈴 木 龍 一
副参事（教育地域力担当）	元 木 重 成
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	政 木 純 也
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
副参事	早 川 隆 之
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪

3 日程

日程第 1 教育長の報告事項

日程第 2 議案審議

第 36 号議案 大田区教育委員会会計年度任用職員の任用等に関する規則

~~~~~  
(午後 2 時00分開会)

○教育長

ただいまから、令和元年第10回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

## ○教育長

それでは、大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に後藤委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は「教育長の報告事項」でございます。

## ○教育長

それでは、まず、教育長報告の前に、今回の台風19号で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

全国的に大きな被害が発生しております。本区におきましても、田園調布四丁目、五丁目で浸水被害が出るなど、現在も被害、対応は続くところでございます。

学校の被害につきましては、前回の台風の時よりも少ない状況でございますけれども、雨漏りなどの被害も見られました。

また、今回の台風では、15校ほどの区立学校が学校避難所として開設され、多くの区民の方が避難されてこられました。風水害に対する非難ということで、地震のときの避難開設と少し異なりまして、様々な課題もありましたけれども、そのことをしっかりと振り返って、課題を整理してまいりたいと思っております。

さて、本日、私からの報告は、矢口中学校のキャリア教育、それから、矢口西小学校のプログラミング教育の研究発表会に行つてまいりましたので、それについてご報告したいと思います。

まず、昨日行われた矢口中学校のキャリア教育の発表会でございます。

キャリア教育というのは、子どもたちが、職業に必要なような資質・能力や社会的・職業的な自立に向けての必要な力、そういうものを育むことを狙いとしております。

矢口中学校では、四つの力、能力を育てることに重点を置いております。一つ目は、人間関係や社会をつくる能力。それから、二つ目が、自分を理解し、管理する能力。それから、三つ目が、課題に対応する能力。それから、四つ目が、キャリアプランをつくる能力。この四つを重点に置いて、授業を進めておりました。

全体的に、矢口中学校の授業を拝見して、強く感じたことの第1点目は、どの教室においても、生徒がグループを組んで話し合い活動をしておりました。活発に楽しそうに学習を進めていたのが非常に印象的でした。授業というと、生徒は前を向いて先生の話聞くという形態を思い浮かべる方もいるかと思いますが、知識を教員から教えてもらう学習というよりも、生徒自らが課題を持って、友達と意見を交換しながら考えを深めていく、いろいろな、様々な知識を再構築していく自分の中につくり出していく、そのような

学習形態に変わりつつあると思いました。

矢口中学校が進めていたのは、学習の目標というものを、知識や技能の獲得、それだけに焦点を当てるのではなくて、さきに掲げた資質や能力をしっかりと育てようという視点を置いているというふうに思いました。人間関係をつくる力や課題解決をする力、そういう資質・能力は、先生から話を聞いているだけの授業では育たないというところだと思います。友達と考えを交流しながら課題解決を図る授業改善が進んでいるのかなと思いました。

次に、感心したことの二つ目は、どの学級においても電子黒板を有効に活用していたところです。電子黒板の教材、勉強を進める上での提示力というのは、とても大きなものだと思います。

今年度は、電子黒板を普通教室に加えて特別教室にも配備してまいるところですがけれども、例えば矢口中学校で言うと、美術の先生が、日本画と西洋画の違いというのを鑑賞している。それが大きな電子黒板に、鮮やかに、迫力のある画面で比較している、そういうような場面も見ました。中にはまだ、電子黒板に慣れていないなという先生もいらっしゃいましたけれども、確実に機器の使用が広がっているというのはありがたいかなと思いました。

3点目は、生徒の考えや意見をとにかく表現させる。その中で、考えを深くさせるというような姿勢が、強く出ていたのではないかなと思います。全体会の発表の中でも、生徒の代表が6人ほどですがけれども、子どもたちの声として、授業で何を学んだかや感想などを言っていました。

先生が話すことが中心の授業から、子どもたちが積極的に話す。表現することは考えることだという意見もございますけれども、非常にいいなと思いました。

中学生になると、かなりの深い考え、または意見、個性的な考えを述べる生徒がおりますので、生徒の表現を生かしされた授業に感心いたしました。

それから、次に、矢口西小学校のプログラミング教育の発表がございました。来年度から、小学校全校で実施されるプログラミング教育を先行的に実施しているものでございます。

小学校のプログラミング教育は、学習指導要領に新たに位置付けられたものです。三つの狙いがあるかと思えます。一つは、プログラミング的な思考です。プログラムを組んでいく、目的を持って、それに順序立てて取り組んでいくというプログラムを動かす思考、それを育む。それから、コンピューターなどを上手に活用し、身近な問題を解決したり、よりよい社会をつくるために生かしていくというような資質ですね。それから、各教科の学びを確実にするプログラミングを通じて、各教科の狙いを達成していくというようなことがあるかと思えます。

ITなどが普及して、多くの仕事なくなるのではないかなというような世論もありますけれども、ITを活用して、新たな産業、仕事が増えていると思えます。日本の場合、そのプログラムをつくり出す人材育成が、諸外国に比べてややおこなっているのではないかなという意見もあります。情報技術を活用した新たな社会のニーズを創造する、基盤となるプログラミング能力を育てることを目標としてやっておりました。

矢口西小学校のプログラミング教育でまず感じたことは、タブレットとか、その機器を

よく活用して、慣れていき、使いこなすということも大事だと思いました。プログラミングを使って図形を描く学習などがありましたけれども、慣れ親しむということが大事かと思えます。

次に、プログラミング的な思考というときには、試行錯誤が大切だと思います。いろいろな条件によって分岐していくことがあるのですけれども、目標を達成するまでの道のり、道筋をいろいろ工夫しながらやっていくという特徴があると思いました。

最後に、プログラミングの目的というのでしょうか、人間や社会のために役に立つプログラムをつくらうと、見識、知識、考え方というベースの力をつけることが大事かなと思いました。

いずれにしても、子どもたちがタブレットやコンピューターに触れる学習機会、そういうことを十分に持てる教育環境を教育委員会としてつくっていくことが第一義であると思いました。

以上、2校の研究発表について述べさせていただきましたけれども、教育委員会としては、さらに授業改善の中で子どもたちの力を伸ばすことに取り組んでいきたいと強く思っているところです。

私からは、以上2点でございます。

委員からございますでしょうか。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

私は、10月5日に、志茂田小学校の運動会に行つてまいりました。大変暑い一日となりまして、競技の数、それから子どもたちの熱中症対策を心配したところではあったのですが、無事に、事故もけがもなくとり行われ、先生方も、ほっと胸をなでおろしたという一日でございました。

校庭の工事が終了ということで、数年ぶりに校庭で運動会を開催したという学校でありました。隣接している中学校のほうでは、まだ校庭の最終工事が行われておりますので、工事に伴うフェンスなどが小学校の校庭のほうに影響していないか、運動会を実際に行つて、安全対策はどうのようになっているかという点で拝見させていただきました。そのところ、少しフェンスのとめ具のところ、子どもたちが実際に活動する校庭側に向いているところが何カ所もあり、保護者のほうからもそのようなお声が上がりましたので、ぜひ、運動会の後の学校アンケートに記入して、提出してくださいということでお伝えをさせていただきました。

子どもたちは、本当に伸び伸びと、きれいな新しくできた校庭で、久しぶりの自分の学校での運動会ということで、楽しい一日、とても健やかな運動の様子が見られた一日ということでありました。

また、10月11日は、矢口西小学校の研究発表会に伺いました。先ほど教育長からお話もありましたように、全体的なところは省略させていただきました、私が印象に残った点を述べさせていただきます。

矢口西小学校では、「「考える子」の育成～プログラミング活動を手立てとして～」というテーマで教育研究に取り組んでいただきました。タブレットの使い方に注目して、全

クラス拝見させていただきました。学年と単元によって、二人で一つを使っているクラス、グループで使っているクラス、それから、一人1台を使っているクラスという様子で、やはりタブレットを使うという一つの手だてというところで考えますと、単元によりまして、授業の内容によって、二人で使ったほうが学習の効果が得られる、また、グループで、そして、一人でといったように、手だてとしては、タブレットの使い方も大変効果が持てる試みかなというふうに関心した次第でございます。

子どもたちは、やはりタブレットを使うということに対しても、とても意欲的に取り組んでいたなという印象を受けました。

10月15日には、矢口中学校の研究発表会に伺いました。「「学びに向かう力を高めるキャリア教育」～教科指導・進路指導を通して～」という研究テーマで、生徒の授業態度、こちらも、先ほど教育長からお話がありましたが、私の印象に残ったところは、やはり生徒の授業態度でした。グループ、それから少人数の班、それから二人組というような形で各クラス授業をしておりましたが、大変発言が多い生徒たちだなという印象を受けました。授業中ですけれども、常にその授業内で問いかけられている問題に対して、自分自身の意見を、グループなりペアになった友達と話をし、表現を通して、疑問に思ったことを掲げ、その疑問に対して解決の道筋を立てていくという一貫した教育がなされていると感心して、授業を拝見してまいりました。

どのクラスの生徒も、大変元気に、楽しそうに授業をしていたなというのが印象的でありました。

授業の後の全体会では、生徒による振り返りといったところで、各学年2名ずつの生徒が壇上に上がりまして、パネルディスカッションという形で、振り返りの質問に対して答えるということがございました。このようなことも、私が今まで研究発表会に行かせていただいた中では初めてのことであり、とても印象的でした。

子どもたちは、それぞれに思ったことを素直にその場で表現し、今日の授業と今までの授業を通して、今後どうしていきたいか、どういうことが課題なのかということを一人数ずつ、しっかりと受けとめて表現し、発言できていたところが、とても印象的でした。

また、今回拝見させていただく私の一つの目標に、今年度開級しました矢口西小学校と矢口中学校の特別支援学級の参観がございました。矢口中学校へは開級式に行っていました。一貫して小中学校という形で進学ということを考えたときに、特別支援学級の教育方針、それからクラス目標というところが、どのような形で促されているのかなという点に対して拝見しました。矢口西小学校では、「ごめんね」が言える、譲り合い、助け合いができる、仲よく・楽しく・優しく・笑顔で頑張るというクラス目標でした。矢口中学校では、いつも元気にチャレンジする、ラブアンドピース、みんな仲よく笑顔で、助け合えるクラスといったクラス目標で日ごろから教育を受けているということが、子どもたちにとっては何よりの成長の手だてとなるのではないかと安心して、見守る形で授業を拝見させていただきました。特別支援学級に通っている生徒たちも、児童も、みんな本当に仲よく、このクラス目標にあるように、仲よく、楽しく、先生と常に会話を弾ませながら授業を行っていたという印象でありました。

私からは以上です。

## ○高橋委員

高橋です。

9月26日に、小中学校の特別支援学級の連合運動会の午後の部の演技を見てまいりました。小学4年生から中学生の綱引きから始まって、中学生の手づくりの鳴子を使ったソーラン節、学校対抗リレー、小学生の「パプリカ」の曲でのリズム遊びなど、児童・生徒、保護者、先生と楽しみながら、和気あいあいとしたいい運動会でした。

次に、10月11日の矢口西小学校の研究発表会ですが、各学年、教科別に授業があり、プログラミング活動を手だてとして考える子の育成のテーマに沿った、楽しく学べる授業でした。スクラッチとかマイクロビットなどを使った授業も見させていただきました。とても楽しそうでした。講演では、「プログラミング教育、初めの一歩からの歩み」についてお話いただきました。

研究から見てきたこととしては、授業改善などがありました。私は、よい授業の中で、10年後に役立つ指導というところが心に残りました。冊子がわかりやすく、理解しやすく示されていました。これからプログラミング活動をする学校の先生方には、とても参考になる資料でした。

## ○三留委員

教育長、各委員から、矢口西小学校のプログラミング教育と矢口中学校のキャリア教育の発表のお話がありました。どちらも、平成28年の12月に示された中央教育審議会答申であるとか新学習指導要領の総則において重要課題の一つとして示されたもので、大変意義のある研究だと私は思っているところです。両校の研究発表会とも参加したかったのですが、私は、矢口西小学校の発表会のみでの参加となりました。近ごろの教育界の動向、そういったものを踏まえて感想を述べさせていただきたいと思います。

平成29年の7月出されました学習指導要領解説、総則の冒頭の総説には、「今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍するころには、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される」とあります。子どもたちは今後、これまでであったことから想像もできないような様々な状況に対応して、生きていくことになるわけです。矢口西小学校の講師の西田光昭先生は、「答えのない社会を生きていく子ども」という表現をしていました。そのために、「未知の状況にも対応できる思考力が必要」そう力説していらっしゃいました。矢口西小学校の研究は、こうした未来社会に生きる子どもの育成に正面から挑戦した研究として評価ができます。

今年から、大田区として、教育振興基本計画「おおた教育ビジョン」が始まっていますが、それに先立って出された国の教育振興基本計画では、2030年度以降の社会を展望した教育施策が強調されています。「技術革新が進展する中、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要」ともありました。キーワードとしては、Society5.0があります。5月に出された教育再生実行会議、第十一次提言にも出てきますけれども、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会、超スマート社会ということです。発表会では、ICTは道具という話もありましたが、Society5.0にあっては、コンピューターやプログラミングは、はさみなどと同じように誰もが

使いこなせるものとなっていくのだと思います。矢口西小の研究は、「これからの時代にあたり前のことを体験する研究」という話も発表会でありました。

教育再生実行会議、十一次提言の「技術の進展に応じた教育の革新」の部分では、全ての大学生が、AI、数理、データサイエンスの基礎的な素養を身につけられるよう、標準的なカリキュラムの作成とか、教員等の資質向上に関する指標や、教員研修計画へのICT活用指導力の育成について明確に位置付けなどのことが示されています。矢口西小の授業実践は、こうしたことにもつながると思います。

学年の段階や実態に応じて、様々なプログラミング活動の提案がされており、参加者も大変参考になったと思います。

一つだけ、5年生の授業を紹介します。正多角形の作図の授業についてでございます。通常の授業だと、コンパスで円を描いて、中心の周りの角を使って正多角形の作図をすることで終わってしまうわけですが、ここでは発展として、辺の数や一つの角の大きさをコンピューターに指示をして、子どもたち一人一人が正多角形づくりに挑戦していました。学習指導要領に例示されている活動なのですが、こうした子どもが取り組みやすく、プログラミングのよさが実感できる教材の開発が望まれます。

また、プログラミング活動を取り入れた授業は、従来の授業形態からの転換の様子も見られます。講師の指導の中に、教師はファシリテーターという話がありました。教える指導者から支援する指導者への転換です。授業では、知識を教わるのではなく、子ども自ら試行錯誤して、知識や情報を獲得していくという姿が見られました。答えのない時代を生きていく子どもにとって、今後、こうした学習も必要になってくると感じました。

小学校段階のプログラミング教育のあり方については、平成28年6月に、小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議が議論の取りまとめをしております。その中に、小学校段階におけるプログラミング教育については、学校と民間が連携した意欲的な取り組みが広がりつつある一方で、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることが、プログラミング教育の目的であるという誤解が広がりつつあるのではないかという指摘があるという記述があります。矢口西小は、プログラミング的思考を活用し、より効果的に教科のねらいを達成するという明確なコンセプトをもとに取り組んでいるため、教科学習の充実にもつながります。

小学校学習指導要領解説、総則編にある、「論理的思考力の育成やプログラミングの働きやよさへの気づき」などについて、教科の指導をしながら達成していくことが大切なのだ、改めて感じました。

有識者会議の議論の取りまとめでは、小学校における効果的なプログラミング教育のために必要な条件が、三つ示されています。

一つ目は、ICT環境の整備。これにつきましては、大田区教育委員会がいち早く、ノート型コンピューター、タブレット、電子黒板など、ICT環境の整備に取り組んでいます。

二つ目は、効果的なプログラミング教育を実現する教材の開発と、教員研修等のあり方です。矢口西小では、多くの教材を開発し、実践事例を積み上げてきています。これをもとに、各学校、また大田区で、教材等について共有化していけばよいと考えました。また、

矢口西小では、教員の研修も進み、技量の習熟が進んでいることを感じました。教職員でつくったICTスキル表は、どの学校でも参考にしてほしい内容だと思います。こうしたものをつくる必要性も感じています。

三つ目は、指導体制の充実や、社会との連携・協働となっています。矢口西小は、チームとして指導にあたっていることを感じました。専門人材の育成や配置も含め、指導体制の充実が求められます。また、広く外部から学校をサポートするための取り組みが求められると思います。

いずれにしても、矢口西小学校の取り組みは、この三つの条件について、学校としての努力もあり、実現することで成果が上がってきているのだと考えます。

21世紀型スキルと言われる情報機器を活用した技能の習熟を図る教育については、今後、さらに発展を見せると思われます。

神奈川県の実立高校では、生徒が私物のスマートフォンを授業中に使用できる環境をつくっていくということです。

乗り越えなければいけないことも多いと思いますが、大田区としても、情報教育のあり方を不断に見直していく姿勢が必要と考えています。

キャリア教育については、また機会があるときにお話をさせていただきたいと思います。以上でございます。

#### ○深澤委員

私も昨日の矢口中学校の研究発表会に行きまいりました。感想は、ほとんど教育長と同じで、非常に生徒たちが楽しそうに授業を受けている姿を見て、ただ先生から知識を教わるだけではなくて、主体的に活動することで、子どもたちが生き生きと学ぶことができる。しかも、それが非常に多分、身につけていくというところが、非常にいいと思いました。

特に、私が授業の中で印象に残ったのは、1時間の中で幾つも見えたものですが、最後に回った3年生の社会の授業なのですけれども、本当に3分ぐらいしか見られなかったので、何をやってきたかということは、実はちょっとよくわかっていないのですが、生徒のレジュメを見ると、人権と公共の福祉というものの関係、調整をどうするかというところの話だったようです。題材としては、バイパスを地方に通したいが、バイパスを通すためには、そこに住んでいる25世帯の方々が立ち退きをしなければいけないという題材でした。その調整をどうするかというのが、住んでいる方の人権と、あとは公共の福祉であるバイパスを通すというところの調整の問題だと、そういう内容だったと思います。そこら辺の議論が聞けなかったのは非常に残念で、最後、人権と公共の福祉とか対立したときに、どのように調整したらいいと思うかという肝心のところでチャイムが鳴ってしまい、生徒たちの考えが聞けなかったのが非常に残念なのですが、そこで先生がおっしゃったのが、これから社会に出たときに、うまくいかないこと、対立することというのは非常にいっぱいあると。そういうときに、あなたたちはどうするという問いかけをされたのです。時間がないので、僕が答えてしまうけれども、そういうときには、納得がいくまで話し合うべきということをおっしゃいました。それがすごく、私は心に残って、生徒たちの心にも残ったと思いました。こういうのが、生きた授業なのだなど。

一つの題材をもとに、道徳の時間とか、そういうことでもなく、子どもたちの心に残るような、生き方に影響を与えるような授業をしてくれていると、本当に数分でしたが、その授業を見て思いました。ああ、こういう授業って本当に、私も受けたかったなと思うぐらいに、本当に最初から最後まで聞きたかったなと思うぐらいに感銘を受けて帰ってまいりまして、大田区の研究発表会の非常に底力といたしますか、大変勉強されて、その勉強された知識を子どもたちに、本当に惜しみなく与えてくださっているというところを感じて、感動して帰ってまいりました。

これからも、こういう研究発表会を、私も拝見させていただくのを楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○教育長

それでは、ほかにご意見はよろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程の第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は「議案審議」です。

それでは、議案を読み上げます。

第36号議案 大田区教育委員会会計年度任用職員の任用等に関する規則でございます。よろしくよろしくお願いいたします。

#### ○教育長

それでは、ただいまの議案について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○教育総務課長

第36号議案 大田区教育委員会会計年度任用職員の任用等に関する規則についてご説明申し上げます。

規則制定の目的は、令和2年4月1日から、大田区でも会計年度任用職員制度を導入することに伴い、教育委員会において任用等に関する事項を定めることとするものでございます。

地方公務員法、並びに地方自治法の一部改正により、現在の特別職非常勤職員の任用が厳格化され、新たに地方公務員法の適応を受ける一般職非常勤職員である会計年度任用職員制度が導入されます。

さきに区長部局は、関係する規定を整備したところですが、会計年度任用職員の任用等に関する規則は、特別区人事委員会の職員の採用、昇任等に関する一般基準の規定に基づき、任命権者ごとに制定する必要があるとございます。このため、教育委員会でも、区長部局とは別に本規則を制定するものでございます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長

ただいま説明いただきました。ご意見、ご質問はございますでしょうか。  
よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第 36 号議案について、原案どおり決定いたします。  
それでは、これをもちまして、令和元年第10回教育委員会定例会を閉会いたします。  
(午後 2 時35分閉会)